

令和2（2020）年度
自己点検・評価報告書
（抜粋）

鎌倉女子大学 中等部・高等部

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教職員及び生徒が学校教育目標を共有できるようにする。 ②学校教育目標、学校運営目標の具現化を図るために、校務分掌の各部署が重要経営指標（KPI）を設定する。
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に関連させる形で、「自己を高める豊かな人間性を育成する」「自立して活躍できる確かな学力を育成する」「世界で通用する語学力と国際性を育成する」「持続可能な社会に参画する力を育成する」の4つの学校教育目標を設定し、学校説明会では毎回紹介することができた。生徒へは部長講話で、学校教育目標に関する内容をパワーポイントを使って説明するようにした。臨時休業によって部長講話が2回しか実施できなかったが、そのうち1回は学校教育目標とそれを具現化する重点取組分野について伝えることができた。 ・重要経営指標（KPI）の設定は本校では初めての試みだったが、本年度は、まず、校務委員会の各委員会で設定することができた。重要経営指標（KPI）の内容としては、初回であるため、1つの委員会につき最低1項目としたが、量的には少なかった。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部長講話の実施が難しい状況なため、機会として始業式・終業式などでの講話でもなるべく学校教育目標に関連した内容を話すようにし、教職員と生徒に同時に学校教育目標の意味を伝えるようにする。また、今後もパワーポイントなどを活用し、だれもが分かりやすい発表を心がける。 ・校務委員会の重要経営指標（KPI）の達成度を数値でしっかりと表せるようにし、教職員で共有できるようにする。また、数量的に、内容的に充実させるためには、もっと生徒の視点を入れたものにする必要があり、現在実施している生徒アンケートの内容や方法を工夫・改善する。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教職員及び生徒が学校教育目標を共有できるようにする。 ②学校教育目標、学校運営目標の具現化を図るために、校務分掌の各部署が重要経営指標（KPI）を設定し、目標の達成度を意識した学校運営を行う。

1-②	<p>・ 中・高等部の状況を踏まえ、重点化された中・短期の目標が定められているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教育活動として、「21世紀型能力の資質能力を育成する」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）の2点を重点目標に設定する。</p> <p>②学校運営として、「選ばれる学校にする」「大学進学実績を向上させる」「効率的な組織運営に取り組む」の3点を重点目標に設定する。</p> <p>③ユネスコスクールへの加盟を目指して、ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に計画的に取り組む、成果を残す。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「21世紀型能力の資質能力を育成する」を達成するために、「学力向上」「英語・国際理解教育」「ESD（持続可能な開発のための教育）」「キャリア教育」の重点取組分野を、また「豊かな人間性を育成する」を達成するために、従来から取り組んでいた指導内容に対して、その意味づけを行い整理した「心の教育プラン」を重点取組分野として設定し、実践した。 ・ 「選ばれる学校にする」「大学進学実績を向上させる」「効率的な組織運営に取り組む」の学校運営の重点目標の達成のために、13の重点取組分野を設定し、実行に移すことができた。 ・ 3月17日をもって、ユネスコスクール加盟に向けた1年間のチャレンジ期間を終えることができた。臨時休業期間があったが、指導に当たってくれた外部の審査員からは、学習プログラムを編成し、教育課程の中に取り込んでいる部分で大変高い評価を得ることができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度スタートしたばかりの教育の重点目標と重点取組分野なため、中期計画に合わせて令和6（2024）年までは継続する。 ・ 学校運営の取組分野は更に細分化しているが、重点目標としては3つ程度にまとまっている方が分かりやすく、引き続き3つの重点目標に基づいて運営する。 ・ ユネスコ本部でのユネスコスクールの審査がコロナ禍で遅れているという情報があるが、本校としてはESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に取り組むつつ、ユネスコスクールの認定までの様々な手続きを正確に行う。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教育活動として、「21世紀型能力の資質能力を育成する」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）の2点を重点目標に設定する。</p> <p>②学校運営として、「選ばれる学校にする」「大学進学実績を向上させる」「効率的な組織運営に取り組む」の3点を重点目標に設定する。</p> <p>③ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に計画的に取り組む。</p>

2. 教育課程

2-①	<p>・教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学力向上を目指した教科のカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>②教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を編成し、実施する。</p> <p>③プログレスコースと国際教養コースの教育課程を編成し、実施する。</p> <p>④週休2日制に合わせた年間行事予定、日課表を編成し、実施する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①令和3（2021）年度完全実施の学習指導要領に基づく教育課程の編成を完成させる。</p> <p>【高等部】</p> <p>①令和4（2022）年度完全実施の学習指導要領に基づく教育課程の編成に取り組む。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標と学習の手引きや年間学習指導計画表を整合させることにより、組織として総合的に学力向上に取り組むことができた。 ・学校教育目標を具現化するための教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語・国際理解教育プログラム」「ESD（持続可能な開発のための教育）プログラム」「キャリア教育プログラム」を策定のうえ、計画どおり実施した。 ・プログレスコースと国際教養コースの教育課程を編成し、実施した。国際教養コースでは「英語・国際理解教育プログラム」の一環として、本年度初めて、外部講師を招いてフランスの言語と文化を学ぶ第2外国語講座を開始した。生徒の評価では、「とても満足」が68.3%、「どちらかと言えば満足」が31.7%と肯定的な回答が100%であった。 ・週休2日制に合わせた行事の精選や実施時期の工夫を行うことで教育効果を高めることができた。また、緊急事態宣言に伴い、年間行事予定表の再編成を行うことで、学校再開後も十分な授業時数の確保に努めることができた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3（2021）年度完全実施の学習指導要領に基づく教育課程の編成に伴い、教職員への周知及び教務規定の改定を行った。 ・家庭学習の習慣化を推進することにより、国際教養コースでは学力向上プランの目標数値を達成した。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や目指す生徒像の実現と、各教科等の目標・ねらいとの整合性を図ることができるよう検討を重ねている。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間学習指導計画表では、授業進度や授業時数をはじめ、各学期ごとの生徒評

	<p>価や自己評価を記載してきたが、事務的な手続きに留まり、教育効果が見えにくいため、改善していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も学力向上を目指した教科の教育課程の運営・改善に継続的に取り組む。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の変更に伴う学力向上プランの数値目標の再設定を行う。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4（2022）年度完全実施の学習指導要領では各教科の観点別学習状況の評価が加わるため、検討していく必要がある。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学力向上を目指した教科のカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ②週休2日制に合わせた年間行事予定、日課表を編成し、実施する。 ③教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を編成し、実施する。 <p>【中等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①令和3（2021）年度完全実施の学習指導要領に基づく中等部教育課程を確実に実施する。 <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ②令和4（2022）年度完全実施の学習指導要領に基づく教育課程の編成に取り組む。

2-②	<p>・教育課程の実施に必要な、教科等の年間指導計画や週案などが適切に作成されているとともに、教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教科会を定期的で開催し、教科の指導方針や教材・教具、指導方法等に関する情報の共有を行い、教科の指導体制を整備する。</p> <p>②本校の教育課程と教科の指導方針に基づき、各教科担任が授業の年間学習指導計画表を作成する。</p> <p>③学習指導委員会が特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、道徳の年間指導計画を作成し、それに基づき、各学年が学習案や実施計画を作成する。</p> <p>④バランスの良い授業時数の配当を行い、各授業のシラバスを作成して授業進度を管理する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・全教科が教科会を定期的で開催し、教科の指導方針、教材・教具、指導方法、成績、入試の作問等に関して情報の共有を行った。</p> <p>・学習の手引きを作成し、生徒への配付を行うとともに、手引きをもとに授業を行った。</p> <p>・特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、道徳の年間指導計画を立て、計画的に実施した。</p> <p>・年間学習指導計画表を作成し、計画的に授業を行うことで、80%の教科・科目で予定どおり授業を進めることができた。また、行事などの際に時間割を管理し、授業数を確保することができた。</p> <p>【中等部】</p> <p>・道徳教育では、立居振舞講座などを年間計画に盛り込み、適宜実施した。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・教科会については、定期的な開催に加え、教科ごとにより積極的に行う。</p> <p>・学習の手引きの書式に生徒評価の項目が加わり、充実度が増したが、アンケートや結果を集約する業務には効率化が必要である。</p> <p>・特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、道徳を効果的に実施するため、各学年が作成した年間指導計画を、学校全体で確認する。</p> <p>・授業時数の配当と管理を適切に行う。</p>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教科会を定期的で開催し、教科の指導方針や教材・教具、指導方法等に関する情報の共有を行い、教科としての指導体制をいっそう整備する。</p> <p>②学習の手引きを作成し、活用することで授業の充実を目指す。</p> <p>③バランスの良い授業時数の配当を行い、各授業進度の管理を行う。</p> <p>④学習指導委員会が特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、道徳の年間指導計画を作成し、それに基づき、各学年が学習案や実施計画を作成する。</p>

2-③	<p>・生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学年やコースなど、個々の学習状況に応じ、生徒の学習を多面的に評価するため、定期試験の点数以外に、日頃の学習の取り組み等を対象に加えて評価する。</p> <p>②定期試験の問題の適正化を図るために、目標とする平均点を60±5点と設定する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①道徳の具体的な評価方法について、全教員で共有する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①正確な評価・評定を出すために、計画的に評価資料を収集する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・各科目の担当者は、生徒の学習状況に応じて、小テストやレポートなどを課し、また実験実習や調べ学習やその発表を行い、家庭学習の向上や学習意欲を高め、その内容を評価にも加えている。ただし、評価のなかでの割合が教務上決まっているのではなく、教科ごとに決めているため、担当によって割合に差が生じている。</p> <p>・中等部では、平均点の目標達成が48%で、点数の超過が24%で、不足が28%であった。高等部では、平均点の目標達成が39%で、点数の超過が13%で、不足が48%であった。高等部の方が問題のレベルが難しいことがわかる。</p> <p>【中等部】</p> <p>・道徳の評価をしている中等部の担当教員間で表現を共有したり、生徒情報の共有をして、評価の材料とすることができ、評価方法の検討につながった。ただし、高等部担当の教員には共有することができなかった。</p> <p>【高等部】</p> <p>・実技系科目を除いた評価資料の収集については、科目の担当者に委ねられている。そのため、担当者間での差が生じてしまうが、年間計画のなかで学習項目ごと必要に応じて、小テストやレポートや実験実習を行っている。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・各教科の観点別学習状況の評価の観点の改定の趣旨を理解し、適切な評価ができるようにしなければならない。</p> <p>・定期試験や提出物など多様な評価のための資料を効率的で正確に処理する必要がある。</p> <p>・定期試験において、大学の入試問題を意識した出題にすると、平均点が低くなる傾向にある。生徒の発達段階や目標とする平均点を意識した作問を心がける必要がある。</p> <p>【中等部】</p> <p>・特別な教科道徳や総合的な学習の時間の適切な評価を行うために、生徒が記述したワークシートなどを保存し、活用する。</p> <p>【高等部】</p>

	<p>・総合的な探究の時間の適切な評価を行うために、生徒が記述したワークシートなどを保存し、活用する。</p>
<p>2021年度の 取組目標</p>	<p>【中・高共通】</p> <p>①新しい教科の観点別学習状況の評価の観点の付け方、評価のために収集した様々な資料のウェイト付け、長期欠席者の評価の在り方などを明確にする。</p> <p>②効率的かつ正確な評価・評定を出すために、校務システムを活用する。</p> <p>③定期試験の問題の適正化を図るために、国語、社会、数学、理科、英語では、定期テストの目標とする平均点を60±5点の達成を50%以上にする。</p> <p>【中等部】</p> <p>①特別な教科道徳や総合的な学習の時間の指導要録の文章記述などを充実させるために、生徒の学習の振り返りを活用し、各学年で書き方や評価の視点などを共有する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①総合的な探究の時間の指導要録の文章記述などを充実させるために、生徒の学習の振り返りを活用し、各学年で書き方や評価の視点などを共有する。</p>

3. 学習指導

3-①	<p>・学習指導要領や学則にのっとり、中等部・高等部全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が適切に行われているか。また、生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた指導が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に指導が改善されているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①模擬試験等により生徒の学力の状況を把握し、学力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。</p> <p>②各種調査により生徒の学習の状況を把握し、学習習慣の定着のために生徒を指導するとともに、保護者と情報を共有するために、年間3回以上、二者面談・三者面談を実施する。</p> <p>③生徒の体力の状況を把握し、体力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。</p> <p>④生徒の英語の4技能の獲得状況を把握し、英語力を向上させるために学校を会場とした英語検定試験を実施する。</p> <p>⑤各学期、授業評価を実施し、指導の工夫・改善に取り組む。</p> <p>【中等部】</p> <p>①英語検定で、プログレスコースは、（令和4（2022）年）中等部3年次で準2級以上（60%）を目指し、国際教養コースは、（令和3（2021）年）中等部2年次で3級以上（50%）、（令和4（2022）年）中等部3年次で準2級以上（80%）を目指して指導する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①英語検定で、プログレスコースは、（令和4（2022）年）高等部3年次で準2級以上（60%）を目指し、国際教養コースは、（令和4（2022）年）高等部3年次で2級以上（50%）を目指して指導する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・模擬試験を実施し、各学年の成績の推移を教員間で共有し、教員の模擬試験に対する意識を高めた。また、3学期には模擬試験の活用のため、河合塾とベネッセによる教員対象の研修を行った。</p> <p>・生徒の学習状況を把握して生徒を指導するとともに、保護者と情報を共有するために、年間3回以上、二者面談・三者面談を実施した。</p> <p>・英語検定については目標級に向けて受検しやすいよう、計画的に事前の受検案内を行い、生徒たちの受検を促すことができた。</p> <p>・各学期、生徒による授業評価を実施し、指導の工夫・改善に取り組んだ。</p> <p>【中等部】</p> <p>・英語検定について、1年生の国際教養コースでは準1級を目指す生徒もいるため、上位級の受検に対する情報提供と対応ができた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・英語検定について目標級達成を目指すために、複数回受検できるように試験日程を設定し準備することができた。</p>

<p>今後の課題</p>	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の結果などを教員が把握し、指導することで、生徒の模擬試験への意識を高めていく必要がある。さらに、模擬試験のなかで生徒の苦手分野などを、授業担当者が把握し、指導することが必要である。 ・引き続き生徒の学習状況を把握し、年間3回以上、二者面談・三者面談を実施する。 ・英語検定協会の情報共有システムを利用して、上位級取得を目指した指導を検討する。 ・授業評価の指標を見直し、教員の指導力改善に役立てる。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検の事前対策を計画的に進める。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試制度を踏まえて、英検の受検体制を整える必要がある。
<p>2021年度の 取組目標</p>	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①模擬試験等により生徒の学力の状況を把握し、学力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。 ②各種調査により生徒の学習の状況を把握し、学習習慣の定着のために生徒を指導するとともに、保護者と情報を共有するために、年間3回以上、二者面談・三者面談を実施する。 ③生徒の体力の状況を把握し、体力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。 ④生徒の英語の4技能の獲得状況を把握し、英語力を向上させるために、学校を会場とした英語検定試験を実施する。 ⑤各学期、授業評価を実施し、指導の工夫・改善に取り組む。 <p>【中等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①英語検定で、プログレスコースは、中等部3年次で準2級以上（60%）を目指し、国際教養コースは、中等部2年次で3級以上（50%）、中等部3年次で準2級以上（80%）を目指して指導する。 <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①英語検定で、プログレスコースは、高等部3年次で準2級以上（60%）を目指し、国際教養コースは、高等部3年次で2級以上（50%）を目指して指導する。

<p>3-②</p>	<p>・体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。</p>
<p>2020年度の 取組目標</p>	<p>【中・高共通】</p> <p>①教科等横断的な学習プログラムのなかで教員が実際にアクティブラーニング型の授業に取り組む。</p> <p>②外部講師を招いて英語集中研修、立居振舞講座、コミュニケーション講座等を実施する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①キャリア教育プログラム（コミュニケーションプログラム）、ESDプログラム（SDGs学習プログラム、人権教育プログラム）で参加型学習を実施する。</p> <p>②英語・国際理解教育プログラム（カナダ研修旅行）、ESDプログラム（国際学習プログラム、鎌倉学習プログラム）で体験型学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①キャリア教育プログラム（コミュニケーションプログラム）、ESDプログラム（SDGs学習プログラム）で参加型学習を実施する。</p> <p>②英語・国際理解教育プログラム（Tokyo Global Gatewayでの英語体験、カナダ修学旅行等）、キャリア教育プログラム（職業体験）で体験型学習を実施する。</p> <p>③ESDプログラム（鎌倉プロジェクト、SDGsアクションプラン）で問題解決的学習を実施する。</p>
<p>目標に対する 取組内容 と成果</p>	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部長（校長）が発行している「職員室だより」の掲載記事「授業力」の影響もあり、アクティブラーニング型の授業に取り組む場面が以前より増加した。 ・立居振舞講座について、例年どおりであれば年2回の実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、後期の1度のみの実施に変更せざるを得なかった。しかし、感染予防のために三密（密集・密接・密閉）を避け、手指消毒を行ったうえで安全に実施することができ、「Classi」を使用したアンケートでは回答した生徒のうち99%が「役に立った」と回答した。 ・コミュニケーション講座では、外部講師による実践的なコミュニケーションスキル研修を実施することができた。 ・キャリア教育プログラムは予定どおり実施し、ディスカッションや友人の発表を通して刺激を受けたようだった。 ・英語・国際理解教育プログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、行先を変更するなどして実施した。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語集中研修について、中等部の生徒は皆出席であり満足感が伝わってきた。 ・ESDプログラムのSDGs学習プログラムでは、中等部の各学年で年間4時間実施した。人権教育プログラムは中等部の全学年で各学期に1時間ずつ実施した。グループ活動を通して生徒相互の学びがみられた。 ・中等部3年生のカナダ修学旅行も中止となり、代替としてブリティッシュヒルズへの語学研修旅行を実施した。 ・ESDプログラムの鎌倉プロジェクトでは、中等部1年生と3年生は由比ガ浜海岸

	<p>にてビーチコーミング、中等部2年生はJICA地球ひろばと鎌倉国宝館での体験学習を実施した。学芸員から説明を受け文化財の管理の体験等を行った。</p> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語集中研修について、高等部2年生の研修最終日の出席率が58%であった。 ・ESDプログラムの鎌倉プロジェクトでは、高等部1年生、2年生ではSDGs目標の達成のための活動を主体的、計画的に取り組み、活動の成果を分析しレポートを作成した。 ・高等部2年生のカナダ修学旅行は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。代替として九州修学旅行のなかで英語ワークショップを行った。ネイティブの教員とグループでハウステンボス内を散策しながら、英会話をを行い好評だった。高等部1年生ではTokyo Global Gatewayでの英語体験を実施した。 ・ESDプログラムのSDGs学習プログラムは、高等部1年生は4時間、2年生は4時間の参加型学習を実施した。ゲーム感覚でSDGsの各目標の実際を知ることや、それらの問題に対して、今の自分たちにできることは何かという視点で、問題解決学習を行うことができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング型授業に取り組む場を増やし、教員が指導する機会を増やす。 ・英語集中研修は、全生徒が出席すべき研修であるため、本研修の実施時期に応じて各学年教員の指導体制（点呼、家庭への連絡、巡回、清掃など）が必要である。業者と学校の役割分担を明確にして実施する。 ・立居振舞講座など外部講師を招聘したり、生徒が校外で活動したりする場合は、引き続き感染予防対策を徹底し、生徒が安心して参加できるような環境を整える。 ・コミュニケーションプログラムは、入学してくる生徒の状況の変化を踏まえたプログラムの運用の仕方を外部講師と検討する。 ・ESDプログラムについて、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりディスカッション等があまり活発に行えなかった。意見交換の方法についての新しい形態を検討する。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも、感染拡大防止を徹底しながらの参加型プログラムの運営が必要である。また、日常生活でどの程度コミュニケーション講座で学んだ内容を活用しているかも確認する。 ・体験学習で身に付けたスキルを汎用的に活用できているか確認する。 ・中等部3年生のブリティッシュヒルズでは内容のある研修ができたため、国内実施の場合はこれを継続して実施したい。 ・由比ガ浜での活動は、海流の影響で漂着物の多い時期と少ない時期があるため、実施時期については検討が必要である。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自がキャリアデザインを意識しながら、コミュニケーションをとることができるプログラムを講師と検討したい。 ・ESDプログラムで学んだ内容を、日常場面で意識できているかの確認と、より強く意識できるようなプログラム運営を学年や外部講師と検討する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等部2年生の修学旅行は実施場所の変更に加え、宿泊数も減り訪問地域が限られたため、内容の充実に向けた検討が必要である。 ・ 高等部1年生のTokyo Global Gatewayは全員対象の行事だったが、コロナ禍の状況に左右され参加率が悪かった。実施時期をずらすなどの対策に加え、本研修の意義を周知するなど、参加率の向上を目指したい。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教科等横断的な学習プログラムのなかで教員が実際にアクティブラーニング型の授業に取り組む。 ②外部講師を招いて英語集中研修、立居振舞講座、コミュニケーション講座等を実施する。 ③英語・国際理解教育プログラム（英語研修、Tokyo Global Gatewayでの英語体験等）で体験型学習を実施する。 ④ESDプログラムで参加型学習、体験型学習、課題解決学習を実施する。 ⑤キャリア教育プログラムで参加型学習、体験型学習を実施する。

3-③	<p>・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①「知識・技能」の定着とともに、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業方法に取り組む。</p> <p>②授業中における「説明」「指示」「発問」「評価」の言語コミュニケーションスキルを向上させる。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディアラウンジの活用や、机の配置を工夫することで、授業の目的に応じて学習のかかわり方を強化した。 ・電子黒板とiPadの活用により、「知識・技能」中心の授業から「思考力・判断力・表現力」を育成する授業への転換が進んだ。 ・部長（校長）が発行している「職員室だより」の記事「授業力」をもとに、言語コミュニケーションスキルについて、各教員の指導性の向上が見られた。 ・公開授業期間中に部長（校長）が各教員の授業を見学し、レポートで改善点を指摘するなど、言語コミュニケーションスキルを向上させる取組が行われた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上を目指し、授業公開や「職員室だより」の掲載記事「授業力」をもとに授業力向上に取り組む。 ・授業者として必要な個々の指導技術を向上させる。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①「知識・技能」の定着とともに、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業方法に取り組む。</p> <p>②授業中における「説明」「指示」「発問」「評価」の言語コミュニケーションスキルを向上させる。</p>

<p>3-④</p>	<p>・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。</p>
<p>2020年度の 取組目標</p>	<p>【中・高共通】</p> <p>①補充的な学習として、中等部2・3年生とプログレスコースの中等部1年生と高等部1年生の希望者は毎月開催される土曜講習に参加する。</p> <p>②発展的な学習として、国際教養コースの中等部1年生と高等部1年生は毎月開催される土曜講習に参加する。</p> <p>③夏期講習や冬期講習では希望者に対して発展的な学習を実施する。</p> <p>④学力不振の生徒や希望した生徒に対して、適宜個別指導を実施したり、取り組むべき学習をアドバイスする。</p> <p>【中等部】</p> <p>①国際教養コースの中等部1年生は夏期講習や冬期講習で発展的な学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施する。</p>
<p>目標に対する 取組内容 と成果</p>	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜講習を月に1回開催し、高等部1年生、中等部1年生には模擬試験などを題材に発展的な学習課題に取り組みせ、中等部2・3年生には補充的な課題に取り組みさせた。 ・夏期講習、冬期講習で、各教科の講座を設定し、発展的な内容を取り扱った。 ・各教科の担当で成績不振の生徒や授業の内容理解が十分でない生徒に対してフォローとなる課題や個別質問対応を行った。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等部1年生に対して、冬期講習を開催し、習熟度授業などを交えて基礎から発展までの内容を指導した。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予備校主催の講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施した。
<p>今後の課題</p>	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜講習の内容の工夫、充実を図り、月1回の講習をより効果的に活用する。 ・個別のフォローを各教科で、確実に取り組める体制を確立することを目指す。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際教養コースについて、夏期、冬期の講習を全員参加で行い、プログレスコースについても積極的な参加を促す。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予備校主催の講習の実施時期を検討する必要がある。
<p>2021年度の 取組目標</p>	<p>【中・高共通】</p> <p>①補充的な学習として、プログレスコースの希望生徒は毎月開催される土曜講習に参加する。</p> <p>②発展的な学習として、国際教養コースの全生徒は毎月開催される土曜講習に参加する。</p>

	<p>③夏期講習や冬期講習では希望者に対して発展的な学習を実施する。</p> <p>④学力不振の生徒や希望した生徒に対して、適宜個別指導を実施したり、取り組むべき学習をアドバイスする。</p> <p>【中等部】</p> <p>①国際教養コースの生徒に対して、夏期講習や冬期講習で発展的な学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施する。</p>
--	--

3-⑤	・チーム・ティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①理科の実験・観察においては、安全を第一に教科担当の他に実験助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。</p> <p>②英会話の授業では、各学年ともネイティブの教員に授業担当者がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて、授業担当者がフォローに入るようにする。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備の段階で薬品等の配付や配置の方法を考え、実験を実施した。 ・英会話の授業では各学年ともネイティブの教員に授業担当者がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて授業担当者がフォローできた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の実験・観察において、ガスバーナー使用時は必ず教員か助手が生徒に手順を確認させてから、立会いのもと着火を行った。また、あらかじめ教員と助手で役割を分担し、実験中に生徒から眼が離れる時間を減らした。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の危険を伴う実験では薬品を扱っている間、2人体制でテーブル間巡視を行った。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の実験・観察においては、非常勤講師が実験を担当する際にも準備が効率的に進むように、器具の収納の仕方、方法や注意点などを共有できるような体制をとる。また、助手を中継役として上記の仕事が進むような実験器具の配置と準備を行う。 ・理科実験、英会話の授業におけるチームティーチングは良い成果がでていたため、今後も同様の授業形態で行っていく。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①理科の実験・観察においては、安全を第一に教科担当の他に理科助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。</p> <p>②英会話の授業では、各学年ともネイティブの教員に授業担当者がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて、授業担当者がフォローに入るようにする。</p>

3-⑥	・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①ICT教育の充実のために、令和2（2020）年度からICT担当者会を設置し、情報教育の推進と情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。</p> <p>②動画コンテンツを利用して、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に取り組む。</p> <p>③各教員のICT活用指導力の向上のために、電子黒板やタブレット型端末等のICT機器の効果的な活用を推進する。</p> <p>④新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業中に、生徒の学びを止めないために、「Classi」や学校ホームページを活用した課題提示やMicrosoftのTeamsを活用した学級活動やオンライン授業を実施する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT担当者会の設置により、これまで教務に集中していた役割が分散し、管理・運用に速やかな対応ができるようになった。 ・タブレット端末のマルチメディア機能や電子黒板を活用することによって、抽象的な概念や思考の過程などを可視化することで理解の促進につなげることができた。 ・ICT機器の効果的な活用を推進するための研修を行えなかった。 ・臨時休業中に「Classi」を利用したホームルーム指導、学習指導などが行われた。さらに、オンラインの学級活動、授業は一部ではあるが実施された。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌の細分化によって取り組むべき内容は明確化したがる、各々が複数の分掌を兼ねており、担当者会レベルでの会議が持ちづらい状況だった。 ・日常的にタブレット端末を活用するため、情報モラルの育成が必要である。 ・ICT機器の効果的な活用を推進するための研修を行いたい。 ・臨時休業に備えて、全教員がオンライン授業を行える体制を整えることが必要である。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①担当者会で密に連絡を取り、情報教育の推進と情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。</p> <p>②動画コンテンツを精査し、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に取り組む。</p> <p>③各教員のICT活用指導力の向上のために、電子黒板やタブレット型端末等のICT機器の効果的な活用を推進する。</p> <p>④臨時休業に備えて、全教員がオンライン授業を行える体制を整えるように検討する。</p>

3-⑦	<p>・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校図書館教育を組織的に推進するために、学校図書館担当者会を設置し、学校図書館全体計画の作成・運営・改善に取り組む。</p> <p>②読書活動の推進として、新入生に対して学校図書館ガイダンスを行ったり、新着案内の掲示を行ったりする。</p> <p>【中等部】</p> <p>①休み時間・放課後など、身近に利用できる学校図書館としてサービスを提供し、展示方法を工夫する。</p> <p>②各教科の授業や道徳、総合的な時間と連携した学校図書館運営を行う。</p> <p>【高等部】</p> <p>①各教科の授業や総合的な探求の時間と連携した学校図書館運営を行う。</p> <p>②新着新書案内のほかに、分野ごとの本の紹介など工夫して行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館担当者会で学校図書館全体計画を作成した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4・5月が臨時休業となり、6月の学校再開後に、中等部では、新入生対象の図書館オリエンテーションやガイダンスを実施し、また、中等部全体では、図書館前に新規購入案内を掲示した。高等部では、新入生対象の図書館オリエンテーションやガイダンスが時間の関係で実施できなかったが、毎月新着新書案内を各クラスに掲示し、新規購入案内を北校舎2階廊下に掲示して、新着案内を行うことができた。 ・各クラスに、掘り出し図書紹介として、毎月図書館の分類別に10冊ずつ表紙をカラーコピーしたものを配付、掲示した。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を手に取りやすいように、表紙を見せて置くなど本の展示方法を工夫し、生徒への本の貸し出しを行った。 ・国語の授業でレポート作成の資料収集、まとめ方、参考資料の書き方など授業にわりながら指導した。国語以外の授業は、書写、総合的な学習の利用があった。 ・英語、家庭科などでは、担当教員が必要な資料を教室へ移動させての利用や国語辞書のブックトラックの教室での利用などがあった。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部1年生国語の授業での利用があった。世界史、英語の授業で参考に見せたい本を、担当教員が何冊か教室へ持っていくという利用があった。 ・高等部1年生国語担当の教員の働きかけで、図書館の本を借りて読もうという動きがあり、おすすめ本のコーナーを作るなどして対応した。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館全体計画を教職員間で共有し、計画の運営・改善に取り組む。 ・新入生に対して学校図書館ガイダンスを行う。蔵書についての案内を行う。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣がある生徒の継続的図書館利用を促す。

	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業や総合的な時間と連携した図書館運営を行う。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館を利用する習慣をつけさせる。高等部全体で、教科書以外の文章を読む習慣がつくように働きかけをする。 ・新書の利用を増やす。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①図書館移転により、授業利用などに支障のないよう図書館運営を行う。 ②生徒が読書や調べものに利用しやすい図書館にするため、PR活動をする。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①図書館に興味を持たせ、利用を増やす。 ②国語以外の教科の利用を働きかける。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新1年生に図書館ガイダンスを行い、図書館利用の習慣をつけさせる。 ②積極的に活用してもらうため、各学年に提供できるサービスを具体的に示す。

3-⑧	・学校行事、委員会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①体育祭・みどり祭（文化祭）・合唱コンクール等の学校行事や生徒の委員会活動を適切に指導するために、校友会担当者会を設置し、組織的に取り組む。</p> <p>②生徒の実践力の向上を目的に、学校行事や委員会指導に計画的に取り組む。</p> <p>③学校行事、委員会活動などにおいて、生徒の安全を第一に考え、起こり得る危険を想定し、危機管理に努める。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校友会担当者会の設置により、これまで生徒指導に集中していた役割が分散し、部活動や行事に特化した速やかな対応ができるようになった。 ・コロナ禍で行事や委員会活動が縮小されるなか、可能な範囲の活動を行った。 ・臨時休業後の万全な感染症・熱中症対策と安全で段階的な再開に向けて「部活動の段階的再開の流れ」等を作成し、顧問と部員に徹底した。再開後の事故や混乱もなく、順調なスタートを切ることができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌の細分化によって取り組むべき内容は明確化したがるが、各々が複数の分掌を兼ねており、担当者会レベルでの会議が持ちづらい状況だった。ICTのより効果的な活用法を検討する必要がある。 ・生徒による実践には時間をかけた丁寧な準備が求められるが、短い放課後には時間的余裕がないため、担当教諭と生徒のリーダーとの連絡や相談が適切に行える環境整備が必要である。 ・生徒の主体的な活動による心身の成長と安全管理のバランスをとり、充実した活動をする。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校行事や委員会活動を校友会担当者会が適切に指導するために、ICTを活用して組織的な課題解決に取り組む。</p> <p>②生徒の実践力の向上を目的に、リーダーを中心とした組織的な連携を構築し、学校行事や委員会指導に計画的に取り組む。</p> <p>③学校行事、委員会活動等においては生徒の安全を優先し、新型コロナウイルス感染症予防と体調管理の徹底、危機管理に継続して努める。</p>

3-⑨	<p>・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制及び教職員全体の協力体制の下に実施されているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①事故防止、事故発生時、事故後についての対策を事前に各部活動で「事故防止のための安全対策」にまとめることにより、事故を未然に防ぐ工夫をし、万が一事故が発生した場合においても速やかに安全対策や応急処置ができる準備を整える。</p> <p>②計画的な活動を実現するために「部活動の在り方に関する方針」に則り、各部活動で、活動計画、予算計画を作成する。また、活動時間、活動場所、活動内容を定める。</p> <p>③部活動を教育活動の一環と捉え、生徒の思考力・実践力を育むための指導に取り組む。</p> <p>④必要な場合は、顧問だけでなく、他の教職員も部活動の指導に協力する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のものに加え、コロナ禍の活動を想定した「各部共通の感染対策ガイドライン」や「部活動の段階的再開の流れ」を作成し、教員・生徒が共有した。 ・部活動方針の項目に新たに各種目の特性に合わせた感染症対策を加え、部活動の再開に合わせて作成することができた。 ・各部顧問の監督のもと、適切に指導が行われた。 ・再開直後の二者面談時には、当該の顧問だけでなく、近くで活動する部活の顧問が活動を見守るなど、安全管理に関する協力も適切に行われた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して安全対策や感染症予防に取り組む。 ・各部の活動方針を検証し、PDCAサイクルの精度を高める。 ・限られた時間をより効率よく活用する指導方法を検討する。 ・引き続き教員どうしの協力体制を継続し、安全で充実した活動環境を整える。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①現状に合わせた「事故防止のための安全対策」の改訂を行い、種目の特性に合った事故の予防、発生時の対策を適正にまとめる。</p> <p>②計画的な活動に向けて「部活動の在り方に関する方針」に則り、各部で部活動方針を作成し、活動の時間、場所、内容、安全管理等の適切な管理を行う。</p> <p>③部活動を教育活動の一環と捉え、生徒の思考力・実践力の育成に取り組む。</p> <p>④安全で充実した部活動の運用のために、顧問以外の教職員も状況に応じて指導に協力する。</p>

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。また、小中連携、中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和2（2020）年度以降、併設校三部の連携を図るために、みどり祭（文化祭）を同日に開催する。 ②併設校相互の連携を図るために、定期的に三部長会を開催する。 ③中高一貫教育を目指し、学習活動は6年間を意識して指導に取り組み、また、校友会の部活動や委員会活動、各種行事は中・高等部合同で実施する。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①初等部の保護者・児童に対して、中等部の教育活動を知ってもらうために、学校説明会等を開催する。 ②中等部の学習にスムーズに入れるように、中等部に進学する初等部の児童を対象に、中等部の数学科教員が算数講座を実施する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①キャリア教育プログラムの一環として、生徒が幼稚部で職業体験を実施する。
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、併設校合同のみどり祭（文化祭）は中止した。 ・ほぼ毎月、三部長会を開催することができた。特に本年度は岩瀬キャンパス再整備に関することで、施設管理部長にも参加し、連携を図ることができた。 ・みどり祭（文化祭）ができなかったため、文化的行事として生徒の実行委員が主体となって、中・高等部内の学習展示発表会を開催した。6月の学校再開後は、部活動や委員会活動における中・高の連携も従来どおり行うことができた。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生と5年生以下と2回に分けて、中等部の学校説明会を行い、初等部保護者に中・高等部の教育活動についての理解を得られた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初等部での算数講座は中止した。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、幼稚部での職業体験は中止した。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・高等部が新校舎に移った後は、今まで以上に併設校各部が相互に情報を共有し、連携を深める必要がある。 ・みどり祭（文化祭）については、新校舎ができることで、会場の割り振りや運営について幼稚部、初等部と検討する必要がある。また、感染症対策なども検討する。 ・初等部の多くの児童が中等部への進学を希望するように、学校説明会の内容を検討する。 ・本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、中止となった取り組みもあったが、できる限り中・高等部生が幼稚部生や初等部生とふれあえる場面

	<p>や幼児教育を学ぶことができる機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しながら、校友会活動や行事において今後も中高の生徒と一緒に活動する場面を設ける。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none">①併設校相互の連携を図るために、定期的に三部長会を開催する。②併設校の連携を図るために、みどり祭（文化祭）を同日に開催する。③中・高等部の教育活動を初等部の保護者・児童に知っていただくために、初等部を対象とした学校説明会を開催する。④中・高等部の生徒が幼稚部生や初等部生と交流できる機会（職業体験、授業での交流など）を設ける。⑤中高連携を目指し、校友会の部活動や委員会活動、みどり祭（文化祭）や体育祭などの各種行事、講話等は中・高等部合同で実施する。

3-⑪	<p>・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教育実習、教職実践演習フィールドワーク等の円滑な実施のために大学と連携する。</p> <p>②みどり祭（文化祭）において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。</p> <p>【高等部】</p> <p>①鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し込みを通して円滑な接続を図る。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・教育実習は新型コロナウイルス感染症拡大のため、日程の変更は生じたが実施することができた。しかし、教職実践演習フィールドワークに関しては実施できなかった。</p> <p>本年度より実施の心理実習についてはスクールカウンセラーを中心に行うことができた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、併設校3部によるみどり祭（文化祭）は中止としたため、大学の学友会の参加も見送られた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・高大連携講座は通年では行えなかったが、2月に集中講座を開講したり担当者間での連絡を密に行うことができた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策に努め、教育実習や教職実践演習フィールドワーク、心理実習を予定どおり行う。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策に努め、大学の学友会と中高等部・高等部の校友会との連携を図る。</p> <p>【高等部】</p> <p>・鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し込みを通して円滑な接続を図る。</p>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①大学の各種実習（教育実習、教職実践演習フィールドワーク、心理実習等）に協力し、円滑な実施のために大学と連携する。</p> <p>②みどり祭（文化祭）において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。</p> <p>【高等部】</p> <p>①鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し込みを通して円滑な接続を図る。</p>

4. キャリア教育（進路指導）

4-①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中等部・高等部全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。 ・ 生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 また、職場体験や就業体験が適切に実施されているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育を組織的に推進するために、キャリア教育担当者会を設置し、キャリア教育プログラムの作成・運営・改善に取り組む。 ② 人間関係形成・社会形成能力の育成のために、キャリア教育プログラムの一環として、コミュニケーションプログラムを実施する。 ③ キャリアプランニング能力、課題対応能力の育成のために、キャリア教育プログラムの一環として、ロールモデル発見プログラムを実施する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① キャリアプランニング能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力の育成のために、キャリア教育プログラムの一環として、職業体験を実施する。
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育担当者会を設置したことで、各教員の業務目標が明確になり、生徒にとってより良いキャリアプログラムの作成が可能となった。 ・ コミュニケーション講座については、1回目はワークブックを用いた個人コミュニケーションレッスンをを行い、2回目に対面式のコミュニケーション講座を実施した。コミュニケーションに対する不安が低減したとの感想が多数あった。 ・ ロールモデル発見プログラムとして、外務省の職員によるキャリア講演会を実施した。講演会後のアンケートでは、講演会を通じて学ぶことがあったと回答した生徒が70%以上であった。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、職業体験等をすべて中止とした。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育担当者会に所属する教員が、関連する研究会等に参加し、担当者会運営に資する情報収集を行うとともに、キャリア教育への理解を深める。 ・ 多くの教員がコミュニケーションプログラムを担当することで、教員の間で広くプログラムの計画・運営についての知識を定着させる。 ・ 生徒の将来イメージに関わるロールモデルを把握して、キャリア講演会講師の人選を行っていく。また、キャリア講演会への意識づけを高めるための、事前・事後のアンケート項目を検討する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業体験について、コロナ禍でも実施可能な代替となる体験を検討していく。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育を組織的に推進するために、キャリア教育担当者会において、キャリア教育プログラムの作成・運営・改善や情報収集に取り組む。

	<p>②キャリア教育の一環として、コミュニケーションプログラムの授業を準備し、授業者を支援する。</p> <p>③キャリア講演会を計画・運営し、講演会後の生徒アンケートでは、「講演会を通じて学ぶことがあったか」という質問で肯定的な回答65%を目指す。</p> <p>【高等部】</p> <p>①キャリア教育の一環として、職業体験を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、代替の活動を検討する。</p>
--	--

4-②	<p>・生徒一人ひとりの理解を深めるために必要な資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているとともに、進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。また、キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①個々の生徒の学力や学習の状況については、模擬試験の情報を適切に収集し、「Classi」の「生徒カルテ」にまとめ、個々の生徒の活動については、「Classi」等で記録し、進路相談等で活用する。</p> <p>②計画的な進路指導を行うために、進路指導委員会が進路指導計画を作成し、各学年と連携して、個々の進路相談を実施する。</p> <p>③組織的な進路指導を行うために、進路ガイダンス、学習ガイダンスを実施する。</p> <p>④効果的な進路相談を行うために、進路相談室を整備し、大学受験情報等必要な資料を用意する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①早い段階で高等部に向けた学習準備に取り組めるように、高等部へ進学する中等部の生徒を対象に、ガイダンスを実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①生徒の大学進学への意識を高めるために、1年次に大学見学ツアー、大学合同説明会、1・2年次に校内大学合同説明会を実施する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・「Classi」については、進路相談の面談での「生徒カルテ」の確認、生徒の学習状況の確認、進路ガイダンスの生徒アンケートの実施等で利用している。</p> <p>・進路指導計画をもとに1年間の進路指導の活動を行い、進路ガイダンス、学習ガイダンスを学年と協力して行った。</p> <p>・進路相談室で進路相談を行い、高等部の学年の廊下に大学受験情報等を掲示等している。</p> <p>【中等部】</p> <p>・中等部では進路ガイダンス、学習ガイダンスを行い、生徒の学習への意識を高めることができた。ガイダンスについてのアンケートで「とても役に立った」「役に立った」の割合は約85%であった。</p> <p>【高等部】</p> <p>・高等部の大学見学ツアー、校内大学合同説明会はコロナ禍のため実施できなかが、大学合同説明会はオンラインによって実施できた。</p> <p>・進路ガイダンスについてのアンケートで、「とても役に立った」「役に立った」の割合は高等部1年生は約85%、2年生は約70%であった。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・「Classi」での学習時間の調査で学習時間が少ないことがわかったため、生徒の家庭学習を促す指導を行う。</p> <p>・進路ガイダンスでのアンケートを活用し、生徒により役立つガイダンスを行っていく。</p> <p>・新校舎への移行に伴い、進路相談室が新しくなる。使用方法を改善しながら、</p>

	<p>オープンな進路相談室の活用方法を検討する。</p> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年教諭と連絡を深め、生徒が学習に取り組むよう学習ガイダンス、進路ガイダンスを活用する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス等、大学研究のイベントの実施をコロナ禍のなかであっても、可能な範囲内で実施していく。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「Classi」での生徒カルテ、学習時間等の活用と共に、模擬試験分析会を学期に2回行い、教員が模擬試験の分析結果を、生徒との進路相談に活用していく。 ②生徒の目標設定、学習意欲向上、学習方法の周知などのために、進路指導計画をもとに各学年と連携して、進路ガイダンス、学習ガイダンスを実施する。 ③効果的な進路相談を行うために、進路相談室を整備し、大学受験情報等必要な資料を用意する。 <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生徒の大学進学への意識を高めるために、1年次に大学見学ツアー、大学合同説明会、1・2年次に校内大学合同説明会を実施する。

5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中等部・高等部全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。 ・ 自主的・自律的に行動でき、豊かな人間関係を構築でき、社会の一員としての意識を身に付けた生徒を育成するための指導を行っているか。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 計画的な生徒指導を行うために、生徒指導計画を作成する。また、「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。 ② 各教職員が生徒の状況を共有するために、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。また、各学年で迅速且つ、足並みをそろえた対応が必要な場合には、生徒指導関連の連絡・共有事項を「Classi」を用いて伝達する。 ③ 計画的・組織的に豊かな人間性の育成に取り組むために、「心の教育プラン」を策定し、実施する。 ④ 自己内省を促すために、修養の鐘の指導、入学坐禅等を計画・実施する。 ⑤ 感性を育てるために、芸術鑑賞教室、全校コーラスを計画・実施する。 ⑥ 社会性を育てるために、日直・週番活動の指導、礼儀・挨拶の指導、立居振舞講座を計画・実施する。 ⑦ 「学校いじめ防止基本方針」を見直し、全教職員でいじめ防止に取り組む。
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新年度開始までに「生徒指導ハンドブック」を作成し、発行した。その中に生徒指導計画を明記した。 ・ 職員会議で各学年の生徒状況報告を行った。「Classi」を用いた連絡・情報共有は、マナー指導等、共通認識が必要な内容を伝達することができた。 ・ 「心の教育プラン」を策定したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「入学坐禅」「芸術鑑賞教室」「全校コーラス」「合唱コンクール」の行事を中止した。 ・ 修養の鐘の指導はオリエンテーションで意義と方法を説明し、日常から率先垂範で指導を行った。 ・ 日直活動は全学年で担任が指導した。週番活動は全教員で輪番制で指導に当たった。礼儀・挨拶指導は、各学級で指導するとともに、朝の挨拶指導を生徒指導委員会が中心となりほぼ毎日実施した。立居振舞講座は、年2回の予定を変更し、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で1回実施することができた。 ・ 「学校いじめ防止基本方針」の見直しは、11月の校務会議において検討したが、特に変更を要する点はなかった。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生徒指導ハンドブック」の読み合わせの機会を設け、情報共有を十分に行う。 ・ 「Classi」の情報はタイムライン式になっており、情報が埋もれてしまう傾向があるため、教員間で新着情報の共有を密にし、情報を見落とさないようにする。 ・ 本年度中止となった行事は、新型コロナウイルス感染症の状況に応じ中止を視野に入れつつも、最大限の感染症対策をとりながら実施する方向で検討する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・修養の鐘の指導は、生徒間では受動的なものとなりやすいため、日常的に意義を確認する指導が必要である。入学坐禅は次年度も中止とする。 ・芸術鑑賞教室、全校コーラスは、新型コロナウイルス感染症の状況に応じ中止も視野に入れつつも、最大限の感染症対策をとりながら実施する方向で検討する。 ・日直活動の指導は各クラスで温度差が生じないように学年団で情報を共有し均一化を図る。立居振舞講座は、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施する。新校舎での実施となるため、施設の特性に注意を払う。 ・「学校いじめ防止基本方針」の読み合わせをする機会を作り、情報共有を十分ににする。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①計画的な生徒指導を行うために、生徒指導計画を作成する。また、「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。 ②各教職員が生徒の状況を共有するために、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。また、各学年で迅速で、足並みをそろえた対応が必要な場合には、生徒指導関連の連絡・共有事項を「Classi」を用いて伝達する。 ③計画的・組織的に豊かな人間性の育成に取り組むために、「心の教育プラン」を実施する。 ④自己内省を促すために、修養の鐘の指導等を計画・実施する。 ⑤感性を育てるために、芸術鑑賞教室を計画・実施する。 ⑥社会性を育てるために、日直・週番活動の指導、礼儀・挨拶の指導、立居振舞講座を計画・実施する。 ⑦「学校いじめ防止基本方針」を見直し、全教職員でいじめ防止に取り組む。

5-②	<p>・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているとともに、スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①個々の教育相談に適切に対応するために、スクールカウンセラーと連携した教育相談委員会を定期的に開催する。</p> <p>②生徒指導のための教育相談の場として、二者面談、三者面談を活用する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①クラスや生徒の状況に応じて、帰りのSHRなどでも実施可能なピア・サポートや構成的グループエンカウターのプログラムを策定し、提供又は実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①人間関係構築に資するピア・サポート、構成的グループエンカウター、キャリアカウンセリングの技法を提供する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・スクールカウンセラーや養護教諭、学年主任と連携して、教育相談委員会を、毎月実施することができた。</p> <p>・二者面談や三者面談を実施する際に、教育相談委員会で面談実施案を提供することができた。面談後の情報は、教育相談委員会で共有できた。</p> <p>【中等部】</p> <p>・ピア・サポートや構成的グループ・エンカウターの指導案を作成し、提供できた。また、各学年に1回ずつ実施に行くことができた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・ピア・サポートや構成的グループエンカウターの指導案を作成し、第1学年に提供することができた。また、キャリア・カウンセリング等のカウンセリングマインドについて、教育相談通信で毎月配信することができた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・教育相談委員会の運営方法は今後も継続し、情報共有の方法や範囲を検討する。</p> <p>・二者面談や三者面談については、今後も現在の体制を継続する。</p> <p>【中等部】</p> <p>・学年の状況に応じた、単発のピア・サポート・プログラムや構成的グループ・エンカウターも提供する。</p> <p>【高等部】</p> <p>・キャリア・カウンセリングに関して、現場の教員のニーズに応じた技法や知識の情報提供の方法を検討する。</p>
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教育相談委員会を定期開催する。情報共有の範囲についても適切に定める。</p> <p>②二者面談や三者面談を実施する際に、教育相談委員会で面談実施案を提供する。また、面談後の情報は、教育相談委員会で共有する。</p> <p>③学年の状況に適したピア・サポート・プログラムと構成的グループ・エンカウターを実施する。</p>

【高等部】

- ①教職員がキャリア・カウンセリングの技法や知識を獲得できるようにするために、情報提供を行う。

6. 保健管理

【中・高等部】 6-①	・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校保健計画を作成し、適切に実施する。</p> <p>②生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。</p> <p>③日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室と各教科指導の連携により、学校保健計画を作成することができた。 ・職員室、保健室、教育相談室を中心に、保護者とも連携を取りながら保健指導、保健相談を行うことができた。 ・クラス担任、学年主任、教科担当者と保健室が連携して日常の健康観察や心のケアを行った。 ・年2回の体位測定、年初の健康診断など、適切に実施することができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が放課後や休み時間等、生徒と関わることができる時間を十分に取れるよう、より一層の業務体系の改革・検討をおこなう機会を設ける。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校保健計画を作成し、適切に実施する。</p> <p>②生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。</p> <p>③日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。</p>

<p>【保健センター】 6-①</p>	<p>・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。</p>
<p>2020年度の 取組目標</p>	<p>【中等部】</p> <p>①緊急時対応の校内研修を開催し、演習を通して適切に実施できるようにする。食物アレルギーのある生徒について全教職員で情報を共有し、個別の取組プランの作成、緊急時の体制づくりを行う。</p> <p>②歯と口の健康づくりを通して健康意識を高められるよう、保健指導の充実を図る。</p> <p>③3年生の講話を担当する鎌倉市の保健師及び助産師にも代替策について相談し、対応できるよう準備する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①学校保健計画では、保健教育についての項目を示し、実施する。</p> <p>②全体への保健教育では、保健講話や行事と関連させた指導に取り組む。</p> <p>③個人への保健教育として、肥満ややせへの働きかけを年間を通して行う。</p> <p>④利用者の発生場所が家、発生時間が数日前の件数を減らすために、普段の生活における予防に重点を置いた保健管理、保健指導に取り組む。</p>
<p>目標に対する 取組内容 と成果</p>	<p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行状況を考慮し、対面での研修は見送った。代替策として、文部科学省作成の研修資料（食物アレルギーに関する基礎知識と緊急時の対応、エビペンの使い方）を各自で視聴した。食物アレルギーの生徒については学校生活管理指導表をもとに個別プランを作成した。緊急時に役割分担を明確にして速やかに行動できるよう、アクションカードの導入を検討した。 ・集団指導として、歯科検診から分かった中等部の状況と予防・改善法をまとめ、保健だよりで配付した。中等部1年生は軽度歯肉炎が学年の半数を超えていたため、個別指導から集団指導に変更し、パワーポイントと動画を用いて歯垢除去と歯肉炎予防を重点的に指導した。 ・3年生の講話について、保健師と打ち合わせを行い、予定日に実施できない場合の対応も検討した。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健教育についての項目を示し、実施することはできなかった。保健行事においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響より、臨時休業期間の実施は困難であったが、関係各所と再調整を行い、授業再開後は、感染予防対策を取りつつも円滑に実施することができた。 ・高等部3年生に外部講師（保健師・管理栄養士）による保健講話「女性の心身の健康」を実施した。また、高等部1年生にはオリエンテーションにて健康管理についての話をした。新型コロナウイルス感染症拡大の影響より、行事が中止になったため、行事と関連させた指導を行うことはできなかった。 ・健康診断後、個別の成長曲線を作成し、体格についてのお知らせを全保護者に行った。摂食障害が疑われる生徒についてカウンセラーと連携を取り、保護者と面談を行い医療につなげた。また、低身長が疑われる生徒の保護者に連絡し、医療につなげた。肥満について個人の保健教育や年間を通しての指導は行うことができなかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での朝の健康観察を実施している。発生場所が家、発生時間が数日前の件数が前年度は55.7%だったが、本年度は35.8%に減少した。
<p>今後の課題</p>	<p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に各々の役割分担を明確にし行動できるよう、アクションカードとエビペン注射を使う場面を想定した研修が必要である。 ・う歯・歯肉炎は生活習慣病の一つであること、思春期のホルモン変化と関係していることを理解させ、予防に取り組む。 ・本年度の講話内容、生徒の事後アンケートをもとに、次年度以降の内容、会場の選定などを行う。学年毎に必要な情報も変化するため、学年主任と都度検討する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の全面実施に向けて、教科を中心とした保健学習と特別活動等による保健指導（個別・日常指導）について整理し、学校保健計画を立案する。 ・健康診断や保健だよりを通じて全体への保健教育を3年間継続して行うことにより、知識の定着を目指す。 ・肥満ややせなどの健康課題を持つ生徒に対して、担任・カウンセラー・保護者と連携を取り、必要時は医療につなげ、適切な配慮が行える環境を整える。 ・登校前（家庭）及び朝のホームルームでの健康観察を継続的に実施し、健康で安心な学校生活がおくれる環境を整える。
<p>2021年度の 取組目標</p>	<p>【中等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①緊急時に各々の役割分担を明確にし行動できるようにするため、1学期に職員の緊急時対応研修を計画する。 ②う歯・歯肉炎の予防と治療への動機づけのため、1年次2学期に歯科集団指導を行う。その際、1学期に行う保健講話の内容に関連付け、理解を深める。 ③保健講話の内容をより充実させるため、令和2（2020）年度の講話の振り返りをもとに保健師、学年主任と内容の見直し、追加を検討する。 <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校保健計画を作成し、保健管理・保健教育を適切に実施する。また、保健行事が円滑に行えるよう努める。 ②高等部3年生の保健講話及び高等部1年生のオリエンテーションは継続して行っていく。また、健康診断や毎月発行する保健だよりを通じて、感染症対策の定期的な確認（緩みの防止）や季節に応じた心身の管理についての指導を行っていく。 ③担任・カウンセラーと日常的に情報交換を行い、必用時は連携を取って対応に当たれるよう努める。 ④「学校の新しい生活様式」を遵守し、健康で安心な学校生活がおくれるように努める。 ⑤新校舎移転後、環境管理が適切に行われるよう努める。

7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているとともに、学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。また、校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に実施する。 ②「防災・防犯マニュアル」を作成し、教職員及び全校生徒で共有し、適切に実施する。 ③校内安全点検を年間3回実施する。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を運用する。 ⑤避難訓練の運営協力・指導を行う。
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新年度開始までに学校安全計画を作成し、「生徒指導ハンドブック」に掲載することで教職員に共有、適切に運用することができた。 ・新年度開始までに「防災・防犯マニュアル」を作成し、教職員及び全校生徒に発行し、適切に運用することができた。 ・年間3回、各学期の最初に校内安全点検を実施した。 ・登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を1学期始業式から適切に運用することができた。 ・避難訓練は2回実施、そのうち1回で備蓄配付訓練も実施することができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導ハンドブック」の読み合わせをする機会を設け、学校安全計画について情報共有を十分に行う。 ・「防災・防犯マニュアル」で、防犯対策の部分について時代に即したものに修正する。 ・新校舎への移転に伴い、点検場所、内容を構築する必要がある。 ・登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）のスムーズな運用開始のため、業者と密接な連携をとる。 ・避難訓練のマンネリ化を避けるため、教員が生徒に避難訓練の重要性を指導できるようにする。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に運用する。 ②「防災・防犯マニュアル」の防犯対策部分について更新し、教職員及び全校生徒で共有し、適切に運用する。 ③校内安全点検をについて、1学期は例年どおりの内容で実施し、2、3学期は新校舎への移転に合わせて、点検場所、内容を新たに構築して、年間3回実施する。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を適切に運用する。

	⑤避難訓練の運営協力及び防災教育指導を行う。
--	------------------------

7-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、引き続き防災訓練を実施する。</p> <p>②岩瀬キャンパス全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回実施し、防災訓練内で消火器取扱い訓練も行った。新型コロナウイルス感染症対策として、本年度は訓練の際に消防署の立ち会いを行わない方針が鎌倉市から出されていたため、2回とも立ち会いのない自主訓練の形式で実施した。 ・中・高等部独自の「防災・防災マニュアル」を発行し、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する基本行動や心構えの周知を行うことができた。 ・防災訓練後の備蓄食料配布訓練等を通じて、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。 ・岩瀬キャンパス全体で防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を実施し、行政機関への報告を行った。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、施設管理部、管轄消防署等と相談しながら、有事に対応できるような活動を今後も継続したい。 ・次年度は中・高等部校舎が南グラウンド敷地内に建設中の新校舎に移転するが、岩瀬キャンパス全体として、幼稚部や初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、中・高等部校舎が南グラウンド敷地内に移転後も引き続き防災訓練を実施する。</p> <p>②岩瀬キャンパス全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。</p>

8. 組織運営

8-①	<p>・部長（校長）など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①管理職は全教職員と適切なコミュニケーションを取るように努める。</p> <p>②管理職は各主任等を適切に指導・支援し、新しい教育活動や学校運営を実現する。</p> <p>③管理職は組織としての成果をあげるために学校マネジメントを推進する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・部長（校長）は教職員との複数回の面接を実施し、また、非常勤講師を含む全教員の授業を参観して、一人ひとりの教員に良かった点、改善点などを伝えた。</p> <p>・主任等に対して、グループリーダーとしての仕事内容や計画を明確にし、また、マネージャーとしての役割について継続的に伝えた結果、教育活動や学校運営において、より組織的に取り組めるようになってきた。</p> <p>・学校マネジメントの理解を深めるために、今取り組んでいることが、PDCAマネジメントサイクルのどこに当たるのかを繰り返し校内広報した結果、教職員で共有することができた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・新校舎では部長室に会議用テーブルを配置し、教職員と管理職とが更に情報交換や相談などをしやすくする。</p> <p>・次年度、新たに主任等になる教職員に対して、管理職が丁寧に指導や支援を継続して行う。</p> <p>・学校マネジメントに関する、教職員全体の知識やスキルの向上を図る。</p>
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①管理職は全教職員と適切なコミュニケーションを取るように努める。</p> <p>②管理職は各主任等を適切に指導・支援し、新しい教育活動や学校運営を実現する。</p> <p>③学校マネジメントについての教職員の知識やスキルを向上させ、学校マネジメントを推進する。</p>

8-②	<p>・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているとともに、職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①校内組織の活性化のために、校務分掌や学年の主任等をミドルリーダーとして位置付けた新しい校内組織を運用する。</p> <p>②学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職、校務委員会の各主任、提案者が出席する運営会議を毎月開催する。</p> <p>③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教員間の意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度から新しくなった校内組織では、各主任等がグループリーダーとしての意識や責任感を持って、グループの運営に取り組む姿が多く見られた。 ・運営会議に参加できない組織からも提案・報告ができるように、担当窓口制度を設定したことで、各組織での計画や取り組みについて検討することができた。 ・今まで会議室で行っていた職員会議を職員室で開催するようにしたことで、効率的な職員会議を実施することができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各主任が自分のグループのメンバーへの指導や支援に取り組む意識を更に高める。 ・運営会議では、各組織からの提案・報告について審議するために、今後も担当窓口制度更を活用する。 ・各教職員のノートパソコンを通して、職員会議の資料に事前に目を通せるようにすることで、更なる効率化に取り組む。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①校内組織の活性化のために、校務分掌や学年の主任等をミドルリーダーとして位置付けた校内組織を運用する。</p> <p>②学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職、校務委員会の各主任、提案者が出席する運営会議を毎月開催する。</p> <p>③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教員間の意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。</p>

8-③	<p>・各種文書や個人情報などの中等部・高等部が保有する情報が適切に管理されるとともに、情報の取り扱い方針が教職員に周知されているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校運営上必要な氏名、住所、電話番号、写真等の使用については保護者の理解に努め、必ずその使用についての同意書を全員から提出してもらう。</p> <p>②個人情報の保管や不要なものの廃棄を適正、確実に行う。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生には入学手続き時に個人情報の取り扱いについての同意書を配付し、全員の保護者から提出された。また、ホームページや学校案内に生徒の写真が掲載される場合には、広報委員会から別途、生徒・保護者の同意を得たり、本人が特定されないなどの配慮を行った。 ・個人所有の情報機器の使用禁止並びにデジタルデータの持ち出しを禁止することで個人情報の流出に努めた。 ・生徒の氏名・住所・成績等の個人情報の一切は、教務委員会で一元管理している。 ・不要となった個人情報記載の文書は、シュレッダー又は溶解処理で廃棄している。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法の指針にのっとり、今後も引き続き管理の徹底に努める。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校運営上必要な氏名、住所、電話番号、写真等の使用については保護者の理解に努め、必ずその使用についての同意書を全員から提出してもらう。</p> <p>②個人情報の保管や不要なものの廃棄を適正、確実に行う。</p>

9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員による授業研究会を行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に中等部・高等部全体で取り組んでいるか。
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教科会を授業研究の場とし、「知識・技能」の定着とともに、「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した授業方法や教材等をテーマに教科全員で共有する。 ②授業中における「説明」「指示」「発問」「評価」の言語コミュニケーションスキルを向上させることをテーマに、授業研究週間を実施する。
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度、新たに研究研修プランを策定し、生徒の学力向上に向けた授業研究の方針を共有した。 ・教科会において、教材や授業方法等の情報共有や研修に取り組んだ。 ・例年のように公開授業週間を設定し、教員が相互に授業参観を行った。今までは、授業を見る視点が設定されていなかったが、本年度から、どの教科にも共通する授業中における「説明」「指示」「発問」「助言」の言語コミュニケーションスキルや表情や身振りなどの非言語コミュニケーションスキルなどの指導技術を視点として授業参観を行うことにしたため、他の教科の授業を参観しやすくなった。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的な学習を意識した授業が広がっており、生徒の発言も多くなった。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試に向けて、どうしても講義中心の授業になる傾向があった。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」の定着と「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した授業研究に取り組むための方針を共有する。 ・効果的な授業力向上のためには、組織的な取り組みが必要である。 ・どの教科にも応用できる指導技術を共有するためには、様々な教科の授業を参観できるようにする。 ・大学入試に向けた授業の研究内容によっては、外部講師を招聘する。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①研究研修プランを策定し、全教職員で授業研究の方針を共有する。 ②教科の授業力を向上させるために、教科会を授業研究の場とし、効果的な授業方法・教材等を共有する。 ③指導技術を学び合うために、相互に授業を参観する公開授業週間を開催する。 ④大学入試に対応する指導方法を学ぶために、外部講師を招請した模擬試験分析会を実施する。

9-②	・校内研修・校外研修の課題が適切に設定され、実施されているとともに、教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①校内の研修については、新任研修会と本校の課題に即した研修会を開催する。また、パソコンや紙媒体を用いての研修資料の共有も推進する。</p> <p>②校外の研修については、研修担当者が案内を教職員に広報する。また、効率化を図り、個々の教職員のニーズに合った研修を受けるために、独立行政法人教職員支援機構のオンライン研修への参加を推進する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修計画を扱う部署や各研修を扱う部署の役割分担を明確にした。 ・生徒理解や相談活動について、ロールプレイを用いた研修を3回実施した。 ・生徒の健康や安全（食物アレルギー・エピペンの使い方など）については、臨時休業のため集合研修はできなかったが、遠隔で実施することができた。 ・新任者に対して、年度当初に新任者研修を実施し、学校経営方針、サービス、教務などを効率よく伝えることができた。 ・校外の研修については開催案内があるたびに、「Classi」を活用して教職員に広報した。また、独立行政法人教職員支援機構のオンライン研修に参加した教員もいた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の時間割の日に、教職員の集合研修は時間的に難しいため、職員会議の日や、生徒が登校しない日に実施する。 ・独立行政法人教職員支援機構のオンライン研修への参加人数を増やす。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学習、生徒指導・理解、健康・安全を主なテーマにして、計画的に校内研修を実施する。</p> <p>②研修担当者は、校外の研修会の案内や研修に関する情報を適宜教職員に広報する。</p>

9-③	<p>・部長（校長）等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員の指導の状況を的確に把握するとともに、教員に対して適切な指導・助言をしているか。また、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①管理職は授業公開週間を中心に全教員の授業を参観し、評価を行い、授業改善のためのアドバイスをを行う。</p> <p>②管理職は授業力向上のための研修資料の提示や指導を行う。</p> <p>③管理職は人材育成や不祥事防止のために、全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に開催された授業公開週間で、計画的に非常勤講師を含めた全教員の授業を参観し、自作した参観シートを活用して、一人ひとりの教員に評価を返すことができた。 ・部長（校長）が発行している「職員室だより」で、10回にわたり「授業力」について連載し、授業力の4つの側面を解説した。さらに、32回にわたり「授業力」のなかの「指導技術」について連載し、すべての教科指導に応用ができる教育の専門職としての技術を紹介し、指導した。 ・不祥事防止に関する資料を全教職員に示した。また、不適切な指導を行った教員に対しては個別に指導を行った。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間を6月と11月に設定し、管理職が授業観察を行い、教員に対して指導、助言を行う。 ・次年度は、授業力のなかの「授業デザイン力」の向上を中心に指導を行い、研修資料を提示する。 ・事例をもとに、何が問題なのか、どう指導すべきかを教員が考えるような資料を作成し、不適切な指導防止のための研修資料とする。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①管理職は授業公開週間を中心に全教員の授業を参観し、評価を行い、授業改善のためのアドバイスをを行う。</p> <p>②管理職は授業力向上のために計画的に研修資料の提示や指導を行う。</p> <p>③管理職は人材育成や不祥事防止のために、全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。</p>

10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	・保護者が中等部・高等部に協力できる体制（教育ボランティア等）を整えているか。
2020年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者が学校行事や生徒の活動に協力しやすくなるように、丁寧な広報活動を行う。 ②保護者との連携・協力の窓口を設置する。
目標に対する 取組内容 と成果	【中・高共通】 ・例年、体育祭、みどり祭（文化祭）、立居振舞講座で保護者有志による参加を募っているが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体育祭、みどり祭（文化祭）などの学校行事や立居振舞講座の保護者の参加を中止とした。 ・入学式・卒業式については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う保護者の参加人数の制限、式当日、入場時の手指消毒や体温チェックなどの協力を得られるように広報に努めた。 ・本年度より、校務分担一覧に保護者との連携・協働の担当者として次長を明記し、保護者との窓口を明確にした。
今後の課題	【中・高共通】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う保護者の行事参加について、今後も保護者に協力を得られるように十分な広報をしていく。
2021年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者が学校行事や生徒の活動に協力できるよう、丁寧な広報活動を行う。 ②保護者との連携・協働の窓口が次長であることを明確にするために、校務分掌に位置付ける。

10-②	・学校公開を定期的に行っているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者に授業中の様子を知ってもらうために、授業参観を実施する。</p> <p>②生徒の活動の様子や成果を見ってもらうために、体育祭・合唱コンクール・みどり祭（文化祭）等の行事を保護者に公開する。</p> <p>③保護者へ学習の機会を提供するために、校内で保護者講座や立居振舞講座を開催する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観について、コロナ禍ではあるが、予定どおり実施できた。また、参観者数についても前年度の2日間の合計32名から本年度は2日間で89名に増加した。 ・コロナ禍でみどり祭（文化祭）をはじめ、ほとんどの行事が中止となったが、生徒が自発的に校内発表会「Smile Day」を立ち上げ、授業参観と合わせて保護者が生徒の作品を見る機会を設けることができた。 ・立居振舞講座は年2回の実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1回に変更せざるを得なかった。しかし、感染予防対策を行ったうえで、保護者向けの立居振舞講座も無事開催することができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の授業参観により関心をもってもらうために、今後も授業を改善したり工夫を凝らしていく。 ・今後も感染症対策を継続し、行事の開催と公開に関して可能な範囲を適切に判断する。 ・保護者講座や立居振舞講座については、次年度も情勢に注意しながら、感染予防対策を行ったうえで、新校舎での実施となるため、施設の特性なども考慮して実施する必要がある。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者に授業中の様子を知ってもらうために授業参観を実施し、参観者人数を100名以上にする。</p> <p>②生徒の活動の様子や成果を発表する場として、状況に合った適正な範囲で体育祭・合唱コンクール・みどり祭（文化祭）の3行事を保護者に公開する。</p> <p>③保護者へ学習の機会を提供するために、校内で立居振舞講座等を開催する。</p>

10-③	<p>・生徒・保護者の中等部・高等部への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。また、教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者の教育活動についての満足度や要望を把握するために、日常のコミュニケーションを大事にするとともに、保護者会、校友会保護者会、三者面談を実施する。</p> <p>②生徒の教育活動についての満足度や要望を把握するために、日常のコミュニケーションを大事にするとともに、生徒アンケート、二者面談を実施する。</p> <p>③個々の教育相談に適切に対応するために教育相談委員会を特別委員会として位置づけ、スクールカウンセラーと連携して組織的、計画的に活動する。</p> <p>④教育相談への生徒の理解を深めるために、スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談を実施する。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・担任から保護者への連絡は密に行い、コミュニケーションを積極的に取るようにした。また、保護者会は情報共有の場として、三者面談は保護者のニーズの把握や担任の思いを伝える重要な場として運営できた。校友会保護者会については、コロナ禍により校友会活動が制限されていた期間が長いため、実施しなかった。</p> <p>・各学期末に生徒アンケートを実施し、生徒の悩み・要望・満足度などを把握することができた。</p> <p>・教育相談委員会の運営方法を見直し、学年・スクールカウンセラー・保健室の共有情報や苦慮している事項を事前に「Classi」で回収し検討することで、委員会の場で今後の対応方法や情報共有の具体的作業内容の提供ができた。</p> <p>・中等部1年生及び高等部1年生全員の面談を実施することができた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・保護者との日常的なコミュニケーションの方法を電話以外に検討する余地がある。また、保護者会が情報共有の場に偏る傾向があるため、コミュニケーションの場としての保護者会の運営方法を模索したい。</p> <p>・生徒の悩み等に迅速に対応することで、アンケート実施の意義を高めていく。</p> <p>・個々の教育相談については、現状の運営を継続する。</p> <p>・スクールカウンセラーによる面談については、LHRなど授業時間内に組み込み、放課後の時間と合わせることで、入学早期に面談が行える形式にする</p>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者の教育活動についての満足度や要望を把握するために、日常のコミュニケーションを大事にするとともに、保護者会、校友会保護者会、三者面談を実施する。</p> <p>②生徒の悩み・要望・満足度などを把握し、生徒の学校生活がより良いものになるように、アンケート・二者面談を実施する。</p> <p>③個々の教育相談に適切に対応するために、教育相談委員会を月例で実施、学年、スクールカウンセラー、保健室と連携して組織的、計画的に活動する。</p>

	④教育相談への生徒の理解を深めるために、スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談を1学期中に実施する。
--	---

10-④	<p>・学校便りや学級便りの発行など、保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。</p>
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者と学校との友好的な協力関係を築くために、印刷広報物（学園だより、学年だより、各種案内等）、web（学校ホームページ、一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）、Classi）のそれぞれの媒体の特性を生かした学校広報活動に取り組む。</p> <p>②対面による情報伝達のために、保護者会、研修旅行説明会等を開催する。</p> <p>③生徒の活躍を伝えるために、部活動の大きな大会での成果を横断幕で表示する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷広報物（学園だより、学年だより、各種案内等）を定期的に発行し、web（学校ホームページ、一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）、Classi）を有効活用し、各媒体の特性を生かした学校広報活動に取り組んだ。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、カナダの研修旅行（中等部3年生）と修学旅行（高等部2年生）が国内に変更になり、旅行者による説明会はなくなったが、各学年とも年2回の保護者会（高等部3年生は1回）と高等部では進路ガイダンスを行った。学校からの連絡事項を伝える以外に、学年やクラスの様子や進路に関する有用な情報を伝えることができた。 ・コロナ禍で各種大会・コンクールが中止となり、活動の成果を横断幕等で表示する機会は1件のみだったが、活動報告の書式を一つにまとめ、ホームページや学園だよりに活用することにより、情報更新の頻度とスピードが向上した。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対する情報伝達手段として、「Classi」は有効活用できているが、通信障害が起きる可能性も考慮し、学校ホームページを併用する。 ・次年度の保護者会についても感染症予防の観点から、日にちや時間をずらすなど、各学年で分散実施が望ましい。その場合、学年で完結ではなく、管理職からの話が聞ける機会が必要であろう。 ・引き続き作業の効率化を図りながら、新しい情報を素早く発信できる準備を進める。引率を伴わないコンクール等についても書式を統一し、効率よく情報を集約できる方法を作りたい。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者と学校との友好的な協力関係を築くために、印刷広報物（学園だより、学年だより、各種案内等）、web（学校ホームページ、一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）、Classi）のそれぞれの媒体の特性を生かした学校広報活動に取り組む。</p> <p>②保護者が学校の様子や行事の実施についての理解を深めることができるよう、保護者会や各種説明会等を中等部1年生～高等部2年生では年3回、高等部3年生では年2回開催する。</p> <p>③生徒の活躍を伝えるために、優秀な成績をあげた部活動等については、懸垂幕</p>

	の掲示を行う。
--	---------

10-⑤	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①地域のNPOや行政と協働して、地域の自然、文化財、SDGsの取組についての情報交換を行う。</p> <p>【中等部】</p> <p>①ESDプログラムの一環として、中等部1・3年生は鎌倉の自然保護、中等部2年生は鎌倉国宝館で文化財保護の体験学習を実施する。</p> <p>②ESDプログラムの一環として、中等部2年生は本郷台にある県立地球市民かながわぷらざで体験学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①ESDプログラムの一環として、地域のNPOと協働して、鎌倉の各地の課題を解決するための方策を考える鎌倉プロジェクトを実施する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・本年度は、鎌倉市役所や鎌倉ユネスコ協会の協力を得て、鎌倉の自然、文化財、観光、SDGs等の学習について何度も情報交換の場を持つことができた。</p> <p>【中等部】</p> <p>・中等部1・3年生は12月に由比ヶ浜海岸でのビーチコーミングを通して、海の豊かさや環境について学習した。中等部2年生は12月に鎌倉国宝館で文化財を取り扱う体験を行い、また、世界遺産についても学習した。</p> <p>・7月に行う予定だった県立地球市民かながわぷらざでの中等部2年生の体験学習は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となった。</p> <p>【高等部】</p> <p>・高等部1年生の3学期から、鎌倉の観光をテーマに課題解決学習に取り組んだ。鎌倉市観光課の職員を招聘し、鎌倉市の観光資源である自然、歴史、伝統行事や観光の課題についての話を聴いた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・地域のNPOや行政との連携を深め、地域をテーマにした学習を考えていく。</p> <p>【中等部】</p> <p>・由比ヶ浜海岸でのビーチコーミングはもう少し暖かい季節に移動する。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮したうえで、県立地球市民かながわぷらざで体験学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>・高等部1年生の3学期から始まった鎌倉の観光をテーマにした課題解決学習は、高等部2年生になっても継続して取り組み、鎌倉市の自然や文化財保護などを含む観光の課題についての学習を続けていく。</p>
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①地域のNPOや行政と協働して、地域の自然、文化財、SDGsの取組について連携する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①ESDプログラムの一環として、中等部1年生は鎌倉の自然保護、中等部2年生は</p>

	<p>文化財保護、中等部3年生は鎌倉の課題をテーマに学習する。</p> <p>②ESDプログラムの一環として、中等部2年生は本郷台にある県立地球市民かながわぷらざで体験学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①ESDプログラムの一環として、行政と連携して、鎌倉の観光の課題を解決するための方策を考える課題解決学習を実施する。</p>
--	--

11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<p>・ 中等部・高等部の教育活動について、説明会の実施、学校案内の配布、ホームページの活用など、多様な媒体を用いてわかりやすく、かつ適切な分量で提供されているか。また、生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校ホームページにタイムリーに情報を掲載し、アクセス数の増加を目指す。</p> <p>②パンフレット、ポスターを始め、様々な広告媒体を用いて広報活動に取り組む。</p> <p>③収集した受験生の個人情報の保護を徹底するために、個人情報を取り扱う担当者を限定する。</p> <p>④多くの受験生・保護者に本校の教育内容等を理解してもらうために、学校説明会への参加者の増加を目指す。</p> <p>【中等部】</p> <p>①塾を通して多くの受験生・保護者に本校の情報を提供してもらうために、塾訪問回数750回を目指す。</p> <p>【高等部】</p> <p>①中学校を通して多くの受験生・保護者に本校の情報を提供してもらうために、中学校訪問は400件を目指す。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページのアクセス数は前年度数を上回った。 ・ 塾や中学校にパンフレットの送付を行う他、塾が発行する受験雑誌や受験サイトへの広告掲載を行い、本校の教育活動をアピールすることができた。 ・ 受験生の個人情報は広報委員会の担当で管理し、有効活用ができた。 ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、校外説明会はほとんど中止になったが、学校説明会への参加者数は前年度よりも増え、中入生の入学者数も増加した。 ・ 確実な中学校訪問の実現により、学校説明会の情報を中学校の進路担当者と受験生、保護者に伝えることができ、学校説明会への参加者数と高入生の入学者数が増加した。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塾訪問は地域担当を決めて2回ずつ訪問し、目標数を達成し、塾担当者に本校の教育活動や入試情報を伝えることができた。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校訪問の担当者を配置し、目標数以上の中学校訪問が実現できた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校ホームページに学校紹介の動画を掲載する。 ・ 志願者、入学者が通っていた塾に御礼訪問する。 ・ 学校ホームページの効果的な活用方法や学校説明会の告知と新校舎移転についての情報発信の方法を検討する。

	<p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none">・多くの入学生を確保するために、学校説明会の内容を検討する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none">・学校説明会への来校者数増加を更に目指し、本校を第一希望に考える受験生数を増やす。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none">①学校説明会の来校者数を確実に増やしていくための告知方法と説明会の内容について検討する。 <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none">①学校説明会への来校者数と志願者数の増加を目指す。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none">①専願者、推薦者の人数増を目指し、入学者数につなげていく。

11-②	・ 中・高等部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①中・高等部の募集業務補佐と支援の充実を引き続き行う。</p> <p>②募集人員充足に向け、説明会や公開行事等の運営支援や、電話・受付窓口等での入学希望者対応の充実を行いたい。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、みどり祭（文化祭）等の公開行事が中止となった。学校説明会については感染防止策を取りながら実施され、毎回窓口対応等運営補助を行った。 ・各種問い合わせに関する電話や窓口対応については、丁寧な対応を心掛け、中・高等部の高感度を上げるよう尽力した。 ・募集要項については、受験希望者にとって内容が分かりやすくなる様なレイアウトや表現を取り入れ工夫した。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務の合理化と新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、入学試験の出願方法をこれまでの窓口受付から郵送受付のみに変更した。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併設校広報の中心である初等・中等教育統括部長や中・高等部管理者との連携を密にし、中・高等部の募集活動の支援充実に努める。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①引き続き中・高等部の募集業務補佐と、支援の更なる充実を行う。</p> <p>②募集人員充足に向け、説明会や公開行事等の運営支援や、電話・受付窓口等での入学希望者対応の充実を行う。</p>

12. 教育環境整備

12-①	・多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①音楽室、美術・工芸室、書道室、情報処理演習室、調理実習室、家庭科室（被服）、物理・地学室、化学室、生物室など各特別教室を有効活用する。</p> <p>②各教室に設置された電子黒板や、1・2年生の生徒全員が持っているタブレット型端末等の機器を活用した授業を行う。</p> <p>③新校舎のラーニングコモンズ、マルチメディアラウンジ等の有効活用を推進するために、令和2（2020）年度から新校舎運営委員会を設置し、組織的に取り組む。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・学習内容や学習形態に応じて、特別教室を使用した。</p> <p>・各教室や特別教室の電子黒板は、学習内容に応じて、パワーポイントをはじめ、画像や動画などの視聴覚教材に使用した。</p> <p>・新校舎各特別教室の室内設計や有効活用を推進するための会議に出席した。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・学校のタブレット端末に、経年劣化による故障が目立ってきたため、対応が必要である。</p> <p>・理科については新校舎理科室移動に際し、器具の整理を行う必要がある。</p>
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①音楽室、美術・工芸室、書道室、情報処理演習室、調理実習室、家庭科室（被服）、物理・地学室、化学室、生物室など各特別教室を有効活用する。</p> <p>②各教室に設置された電子黒板や生徒全員が持っているタブレット端末等の機器を活用した授業を行う。</p> <p>③新校舎のラーニングコモンズ、マルチメディアラウンジ等の有効活用を推進するために新校舎運営委員会で組織的に取り組む。</p>

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回を実施する。</p> <p>②業者委託業務による計画的な環境整備を行う。</p> <p>③創立80周年記念事業の中等部・高等部新築工事において、環境に配慮した備品等の再利用を行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検など業者への委託による環境整備・安全確保等も行った。 ・空調設備など設備機器の経年劣化による不具合への対応を行った。 ・人工芝用散水設備は人工芝布設工事の際、暑さ対策用に設けた設備であるが、経年劣化によるポンプ不良のため更新工事を行った。 ・衛生管理の強化のため、生徒が担当していたトイレ清掃を業者委託とした。また清掃員増員に伴い、新たに東館1階に清掃員控室を設けた。 ・松本講堂第一体育館は平成16（2004）年の改修工事から16年経過し、木製床面の滑りから怪我等を未然に防ぐため床塗装工事を行った。 ・東館第二体育館において、緊急事態宣言による1学期延長に伴い、熱中症対策として、スポットクーラーを4台設置した。 ・プール棟において、良好な維持管理のため、ボイラー部品交換工事、機械室給気ファン交換工事、電動排煙窓修繕、シャワー混合栓修繕を行った。 ・台風による事前の安全対策として、学園の杜の道路沿いの高木剪定を行った。 ・東館、松本講堂系統の給水管において、老朽化による漏水対応の更新工事を行った。 ・創立80周年記念事業の中等部・高等部新築工事において、工事エリアを仮囲いで区画し、生徒の安全を確保した。 ・施設設備環境の向上、更なる安全確保を図るため、中等部・高等部新築工事を始める。 ・備品、家具の調査を実施し、既存家具を活用した家具計画を行った。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・委託業務の内容などが実情に合わせたものになるよう計画する。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回を実施する。</p> <p>②業者委託業務による計画的な環境整備を行う。</p>

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学習指導要領の改訂に伴い、必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。</p> <p>②パソコン、電子黒板、タブレット型端末等のICT機器を活用した授業やオンライン英会話、「Classi」の教材を利用した学習に取り組む。また、臨時休業中はオンラインの学級活動や授業にも取り組み、教育の情報化を推進する。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教室に設置された電子黒板をはじめ、中・高等部の2学年で導入されているタブレット端末は、様々な教育活動の場で活用された。 ・「Classi」を利用したホームルーム指導、学習指導などが行われた。 ・臨時休業中に、オンラインの学級活動、授業が一部ではあるが実施された。 ・オンライン英会話の授業を定期的に行った。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度は中・高の全体でタブレット端末の導入がされる。また、新校舎への移転もあるため、必要になるものを模索する必要がある。 ・ICT環境の充実にあわせて、タブレットの各種アプリケーションで情報を共有し、それをもとに電子黒板を利用した授業を展開するなど、徐々にその活用の幅を広げていく。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学習指導要領の改訂に伴い、必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。</p> <p>②オンライン授業、タブレット・パソコン・電子黒板などを利用する授業などをほぼすべての教員が実施できるように、技術を共有できる環境づくりを行う。</p>

13. 事務支援体制

13-①	・ 中・高等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
2020年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>① 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。</p> <p>② 高等学校等就学支援金や生徒学費緊急支援補助金事務を含め、校納金の収納や支援業務を支障なく行う。</p> <p>③ 預り金の管理業務について、引き続き適正に行われる様調整を行う。</p>
目標に対する 取組内容 と成果	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・ 業者支払いの勘定伝票や預り金についての新たな帳票を、引き続き初等・中等教育支援室で作成し、事務処理の合理化・厳格化をいっそう進めることができた。 ・ 校友会費処理についても、経理部と連携をとり改善を行った。 ・ 校納金の収納について、これまで保護者の引落とし口座の金融機関により引落日が異なり月に2日引落日が設定されていたが、本年度よりすべての金融機関で月1日に統一し業務の合理化を行った。高等学校等就学支援金や学費軽減補助金、生徒学費緊急支援補助金事務と共に順調に遂行されている。 ・ 預り金管理業務についても、各学年の担当者と連携し適正に行われている。 ・ 新入生の制服採寸において、新型コロナウイルス感染症対策のため三密（密集・密接・密閉）を避けるべく、人数を時間ごとに制限しながら実施するなどの対応を図り、問題なく行うことができた。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も窓口や電話での対応に関して、適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・ 次年度より中・高等部校舎が南グラウンド敷地内に建設中の新校舎に移転するため、支障なくこれまでどおり事務支援の円滑な実施ができるよう尽力したい。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>① 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。</p> <p>② 中・高等部校舎の移転に伴う業務を円滑に行う。</p> <p>③ 校納金の収納等会計処理を適正に実施する。</p>

14. 自己点検・評価

14-①	<p>・自己点検・評価が年に1回以上定期的に、全教職員が関与し、組織的に実施されているか。また、自己点検・評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。</p>
2020年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①全教職員が自己点検・評価の結果を共有し、改善に向けて共通理解を深めるために、学校評価委員会を特別委員会として設置し、組織的に取り組む。</p> <p>②中期計画及び相互評価・外部評価の指摘事項を的確に理解し、各委員会、各担当者は評価指標を適切に設定する。</p> <p>③21世紀型能力の育成と豊かな人間性の育成に向けた教育活動と広報活動の強化に重点的に取り組み、取組目標の達成を目指す。</p>
目標に対する取組内容と成果	<p>【中・高共通】</p> <p>・特別委員会として学校評価委員会を設置し、自己点検・評価報告書作成計画を策定して、組織的・計画的に取り組むことができた。</p> <p>・中期計画及び相互評価・外部評価の指摘事項を全教職員で共有するとともに、各項目毎の担当部署を明確にした。また、その結果を受けて、各委員会、各担当者は評価指標を初めて設定することができた。</p> <p>・21世紀型能力の育成と豊かな人間性の育成という重点取組目標を設定したことで、優先順位を付けることができた。その結果、2年前に比べて校外学習を約40%削減し、逆に必要な新しい学習を取り入れるなどのスクラップ&ビルドを実施することができた。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・学校評価委員会の活動が後期に偏っていたため、前期から教職員の意識を高められるように取り組む。</p> <p>・すべての校務委員会、担当者は設定した評価指標と目標が適切であったかを検討し、改善する。</p> <p>・21世紀型能力の育成と豊かな人間性の育成に向けた教育活動と広報活動の強化に重点的に取り組み、取組目標の達成を目指す。</p>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①全教職員が自己点検・評価の結果を共有し、改善に向けて共通理解を深めるために、学校評価委員会を中心に組織的・計画的に取り組む。</p> <p>②自己点検・評価の結果を学校の重点取組分野の活動に反映させるために、すべての校務委員会、担当者は評価指標と目標を適切に設定する。</p>